

高松塚古墳壁画仮設修理施設の保存環境について

国立文化財機構古墳壁画PT生物環境班

仮設修理施設内の温湿度・生物等の環境調査（令和4年度中間報告）

① 温湿度調査

壁画の保存環境を良好に保つため、施設内の温湿度調査を継続して実施している。また、現在ではインターネットにより操作可能なデータロガーを導入し、遠隔監視も実施している。令和4年1月1日から9月30日までは作業室で平均21.2℃、平均56.7%rhであり、管理目標値（21℃、55±5%rh）を維持し、安定した温熱環境にあることを確認している（図1、図2）。引き続きクラウド型温湿度計で常時確認するとともに、令和4年12月に設置型の温湿度計の交換を予定している。

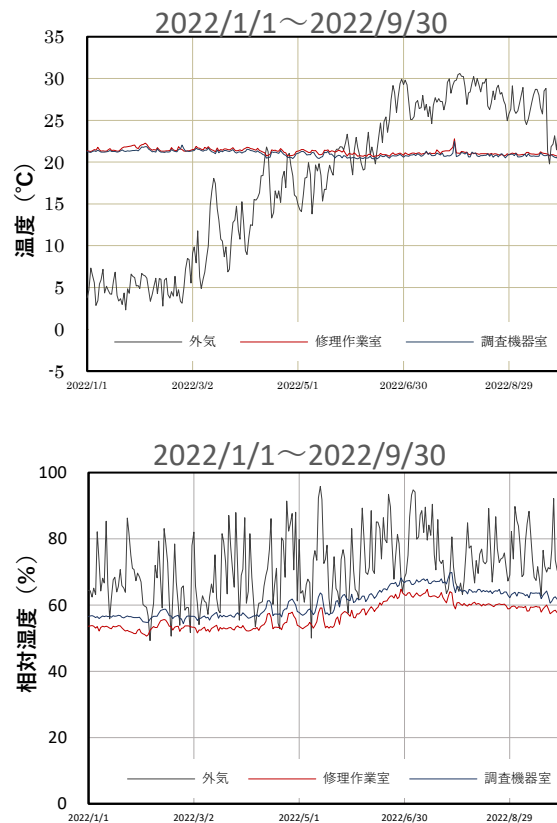


図1 高松塚古墳壁画修理作業施設内の気温（上）と相対湿度（下）

- ② 空気環境調査
 - 空気質調査（8月に実施、次回12月に実施予定）
 - 浮遊粒子数調査（8月に実施、次回1月に実施予定）
- ③ 歩行性昆虫捕獲調査（5月・8月に実施、11月・2月に実施予定）
- ④ 環境カビ調査（8月に実施、次回1月に実施予定）
- ⑤ 除塵清掃作業（2月に実施予定）

壁画の保存環境維持管理指針の策定

温湿度、空気質、浮遊粒子、環境カビ、歩行性昆虫の調査データを精査して、壁画が当分の間、適切な場所で保存管理・公開が行われる際に基準となる保存環境維持管理指針の提案に向けた検討を行う。また他の装飾古墳の微生物調査も行う。